

3. 解答傾向の振り返り

●ものづくり人材 3つの課題

課題① 「生産性」にまつわる問題に弱さ

第8回に限らないことですが、IE (Industrial Engineering) にまつわる問題で正答率が低い傾向がつついています。とくに労働生産性と設備生産性を求める問題で正答率が高くありませんでした。製造現場で「ムリ・ムダ・ムラの排除」はよく言われることですが、3ムの排除によって生産性は改善できます。生産マイスターでは人・設備機械・材料 (Man・Machine・Material) のロスをなくすことで生産性を向上させる方法を述べていますが、生産性の実態をつかむところでつまづきがあるようです。ダントツの生産性を手に入れるには、より精度のたかい実態把握を繰り返していくしかありません。

課題② 「統計」にまつわるピックに弱さ

「工程能力指数 (2級~3級)」「ワークサンプリング (3級~ベーシック級)」「3カ月加重移動平均 (2級)」などの項目で平均点が高くありませんでした。工程能力指数はある工程の品質特性値の状態を統計的に示した指標で、ワークサンプリングは労働生産性を計測する際の観測法で、テキストで経済性と信頼性を考慮し観測数を決める数式が紹介されています。3カ月加重移動平均法は需要予測を行う際に利用する手法で、販売計画を立てる上でとても都合のよいツールです。いずれも統計学で学ぶ要素が入っていますが、どれも正答率は高くありませんでした。

課題③ 「グラフや表」の問題に弱さ

ヒストグラムの読み取り問題など、グラフや表にまつわる問題で平均点が低くなる傾向がありました。この傾向は2~3年つついているものですが、私どもは「改善活動の結果を発表・報告する機会が少なくなっているのでは」と考えています。くわえて言うなら、「見える化」「目で見える管理」への工夫が滞っているのかもしれませんが。あるコンサルタントが指摘していましたが「パソコンのモニタ上で考える人が増えるばかりで手を動かす経験が少なくなっている」とのことでした。ぜひ手を動かしながらグラフ化や図表化に励んでみてはいかがでしょうか。

